

下に掲げる全ての天皇が実在していたかは定かではないとされています。

特に、初期の天皇は神武天皇を初めとして神話の世界です。

また、ここでは、追号として漢号を掲げていますが、これも後代に付されたものです。

代数	追号	読みがな	和名	在	位	期
1	神武	じんむ	神日本磐余彦(かむやまといわれひこ)	神武天皇 元(前660) 正. 1	- 神武天皇	76(前585) 3.11
2	綏靖	すいぜい	神渟名川耳(かむぬなかわみみ)	綏靖天皇 元(前581) 正. 8	- 綏靖天皇	33(前549) 5.10
3	安寧	あんねい	磯城津彦玉手看(しきつひこまたでみ)	綏靖天皇 33(前549) 7. 3	- 安寧天皇	38(前511) 12. 6
4	懿徳	いとく	大日本彦耜友(おおやまとひこすきとも)	懿徳天皇 元(前510) . 4	- 懿徳天皇	34(前477) 9. 8
5	孝昭	こうしょう	観松彦香殖稻(みまつひこえしね)	孝昭天皇 元(前475) 正. 9	- 孝昭天皇	83(前393) 8. 5
6	孝安	こうあん	日本足彦國押人(やまとたらしひこくにおしひと)	孝安天皇 元(前392) 正. 27	- 孝安天皇	102(前291) 正. 9

7	孝靈	こう れい	大日本根子 彦太瓊（お おやまとね こひこふと に）	孝靈天皇 元(前290) 正 . 12	- 孝靈天皇76(前215) 2. 8
8	孝元	こう げん	大日本根子 彦國牽（お おやまとね こひこくに くる）	孝元天皇 元(前214) 正 . 14	- 孝元天皇57(前158) 9. 2
9	開化	かい か	稚日本根子 彦大日日 （わかやま とねこひこ おおひひ）	孝元天 皇57(前158) 11 . 12	- 開化天皇60(前98) 4. 9
10	崇神	すじ ん	御間城入彦 五十瓊殖 （みまきい りひこいえ に）イリ王 朝(10-14代)	崇神天皇 元(前97) 正 . 13	- 崇神天皇68(前30) 12. 5
11	垂仁	すい にん	活目入彦五 十狭茅（い りめいりひ こいさち）	垂仁天皇 元(前29) 正 . 2	- 垂仁天皇99(70) 7.14
12	景行	けい こう	大足彦忍代 別（おおた らしひこお しろわけ）	景行天皇 元(71) 7 . 11	- 景行天皇60(130) 11. 7
13	成務	せい む	稚足彦（わ かたらしひ こ）	成務天皇 元(131) 正 . 5	- 成務天皇60(190) 6.11

14	仲哀	ちゅうあ い	足仲彦(た らしなかつ ひこ)	仲哀天皇 元(192)正. 11	- 仲哀天皇9(200) 2.6
15	応神	おう じん	誉田別(ほ むだわけ) ワケ王朝(15- 25代)。	応神天皇 元(270)正. 1	- 応神天皇41(310) 2.15
16	仁徳	にん とく	大鷦鷯(お おさきぎ) 倭王 讚/珍か	仁徳天皇 元(313)正. 3	- 仁徳天皇87(399) 正.16
17	履中	り ちゅう う	去来穂別 (おおえの いざほわ け)	履中天皇 元(400)2.1	- 履中天皇6(405) 3.15
18	反正	はん ぜい	多遲比瑞齒 別(たじひ のみずはわ け)	反正天皇 元(406)正. 2	- 反正天皇5(410) 正.23
19	允恭	いん ぎょう う	雄朝津間稚 子宿禰(お あさずまわ くごのすく ね)	允恭天皇 元(412)12	- 允恭天皇42(453) 正.14
20	安康	あん こう	穴穂(あな ほ)	允恭天 皇42(453) 12.14	- 安康天皇3(456) 8.9
21	雄略	ゆう りゃく	大泊瀬幼武 (おおはつ せわかた け)	安康天 皇3(456)11 .13	- 雄略天皇23(479) 8.7

22	清寧	せい ねい	白髪武広国 押稚日本根 子(しらが たけひろく におしわか やまとね こ)	清寧天皇 元(480)正. 15	- 清寧天皇5(484) 正.16
23	顯宗	けん ぞう	弘計(を け)	顯宗天皇 元(485)正. 1	- 顯宗天皇3(487) 4.25
24	仁賢	にん けん	億計(お け)	仁賢天皇 元(488)正. 5	- 仁賢天皇11(498) 8.8
25	武烈	ぶれ つ	小泊瀬稚鷯 鷯(おはつ せのわかさ ぎ)	仁賢天 皇11(498) 12	- 武烈天皇8(506) 12.8
26	繼体	けい たい	男大迹(お ほど) 新王朝。	繼体天皇 元(507)2.4	- 繼体天皇25(531) 2.7
27	安閑	あん かん	勾大兄広国 押武金目 (まがりの おおひろく におしたけ かなひ)	繼体天 皇25(531)2 .7	- 安閑天皇2(535) 12.17
28	宣化	せん か	武小廣國押 盾(たけお ひろくにお したて)	安閑天 皇2(535)12 .17	- 宣化天皇4(539) 2.10

29	欽明	きん めい	天国排開広 庭（あめく におしひら きひろに わ）	宣化天 皇4(539) 12 .5	- 欽明天皇32(571) 4.15
30	敏達	びだ つ	訳語田淳中 倉太珠敷尊 （おさだの ぬなくらふ とたまし き）	敏達天皇 元(572) 4.3 .5	- 敏達天皇14(585) 8.15
31	用明	よう めい	橘豊日（た ちばなのと よひ）	敏達天 皇14(585) 9 .5	- 用明天皇2(587) 4.9
32	崇峻	す しゅ ん	泊瀬部（は つせべ）	用明天 皇2(587) 8. 2	- 崇峻天皇5(592) 11.3
33	推古	すい こ	額田部（ぬ かたべ）	崇峻天 皇5(592) 12 .8	- 推古天皇36(628) 3.7
34	舒明	じょ めい	息長足日廣 額（おきな がたらしひ ひろぬか）	舒明天皇 元(629) 正. 4	- 舒明天皇13(641) 10.9
35	皇極	こう ぎょ く	天豊財重日 足姫（あめ とよたから いかしひた からしひ め）	皇極天皇 元(642) 正. 15	- 大化元(645) 6.14
36	孝徳	こう とく	天万豊日 （あめよろ ずとよひ）	大化元(645) 6.14	- 白雉5(654) 10.10

37	齊明(皇極重祚)	さいめい		齊明天皇元(655) 正. 3	- 齊明天皇7(661) 7.24
38	天智	てんじ	中大兄, 天命開別 (あめみとこひらかすわけ)	天智天皇7(668) 正. 3	- 天智天皇10(671) 12. 3
39	弘文	こうぶん	大友、明治3年に皇位追贈	天智天皇10(671) 12. 5	- 天武天皇元(672) 7.23
40	天武	てんむ	大海人	天武天皇2(673) 2. 27	- 朱鳥元(686) 9. 9
41	持統	じとう		持統天皇4(690) 正. 1	- 文武天皇元(697) 8. 1
42	文武	もんむ	倭根子豊祖父 (やまとねことよおおじ)	文武天皇元(697) 8. 1	- 慶雲4(707) 6.15
43	元明	げんめい	阿閑	慶雲4(707) 7. 17	- 靈龜元(715) 9. 2
44	元正	げんしょう	氷高 (ひだか)	靈龜元(715) 9. 2	- 神龜元(724) 2. 4
45	聖武	しょうむ	首 (おびと)	神龜元(724) 2. 4	- 天平勝宝元(749) 7. 2
46	孝謙	こうけん	阿倍	天平勝宝元(749) 7. 2	- 天平宝字2(758) 8. 1

47	淳仁	じゅ んに ん	大炊、淡路 廃帝 (恵美押勝の 反乱時に廃 帝)	天平宝 字2(758) 8. 1	- 天平宝字8(764) 10.9
48	称徳(孝謙重祚)	しょ うと く		天平宝 字8(764) 10 .9	- 宝亀元(770) 8.4
49	光仁	こう にん	白壁	宝亀元(770) 10.1	- 天応元(781) 4.3
50	桓武	かん む	山部(やま のべ)	天応元(781) 4.3	- 大同元(806) 3.17
51	平城	へい ぜい	安殿(あ て)	大同元(806) 3.17	- 大同4(809) 4.1
52	嵯峨	さが	神野(かみ の)	大同4(809) 4.1	- 弘仁14(823) 4.16
53	淳和	じゅ んな	大伴(おお とも)	弘仁14(823) 4.16	- 天長10(833) 2.28
54	仁明	にん みよ う	正良(まさ ら)	天長10(833) 2.28	- 嘉祥3(850) 3.21
55	文徳	もん とく	道康(みち やす)	嘉祥3(850) 3.21	- 天安2(858) 8.27
56	清和	せい わ	惟仁(これ ひと)	天安2(858) 8.27	- 貞観18(876) 11.29
57	陽成	よう ぜい	貞明(さだ あきら)	貞観18(876) 11.29	- 元慶8(884) 2.4
58	光孝	こう こう	時康(とき やす)	元慶8(884) 2.4	- 仁和3(887) 8.26
59	宇多	うだ	定省(さだ み)	仁和3(887) 8.26	- 寛平9(897) 7.3

60	醍醐	だいご	維城、延喜 聖主	寛平9(897) 7.3	- 延長8(930)	9.22
61	朱雀	すざく	寛明(ひろ あきら)	延長8(930) 9.22	- 天慶9(946)	4.20
62	村上	むらかみ	成明(なり あきら)	天慶9(946) 4.20	- 康保4(967)	5.25
63	冷泉	れいぜい	憲平(のり ひら)	康保4(967) 5.25	- 安和2(969)	8.13
64	円融	えんゆう	守平(もり ひら)	安和2(969) 8.13	- 永観2(984)	8.27
65	花山	かさん	師貞(もろ さだ)	永観2(984) 8.27	- 寛和2(986)	6.23
66	一条	いちじょう	懐仁(かね ひと)	寛和2(986) 6.23	- 寛弘8(1011)	6.13
67	三条	さんじょう	居貞(おき さだ)	寛弘8(1011) 6.13	- 長和5(1016)	正.29
68	後一条	ごいちじょう	敦成(あつ ひら)	長和5(1016) 正.29	- 長元9(1036)	4.17
69	後朱雀	ごすざく	敦良(あつ なが)	長元9(1036) 4.17	- 寛徳2(1045)	正.16
70	後冷泉	ごれいぜい	親仁(ちか ひと)	寛徳2(1045) 正.16	- 治暦4(1068)	4.19
71	後三条	ごさんじょう	尊仁(たか ひと)	治暦4(1068) 4.19	- 延久4(1072)	12.8
72	白河	しらかわ	貞仁(さだ ひと)	延久4(1072) 12.8	- 応徳3(1086)	11.26

73	堀河	ほり かわ	善仁(たる ひと)	応徳3(1086) - 嘉承2(1107) 7.19 11.26
74	鳥羽	とば	宗仁(むね ひと)	嘉承2(1107) - 保安4(1123) 7.19 正.28
75	崇徳	すと く	顕仁(あき ひと)	保安4(1123) - 永治元(1141) 12. 正.28 7
76	近衛	この え	体仁(なり ひと)	永治 元(1141) 12 .7 - 久寿2(1155) 7.23
77	後白 河	ごし らか わ	雅仁(まさ ひと)	久寿2(1155) - 保元3(1158) 8.11 7.24
78	二条	に じょ う	守仁(もり ひと)	保元3(1158) - 永万元(1165) 8.11 6.25
79	六条	ろく じょ う	順仁(のぶ ひと)	永万 元(1165) 6. 25 - 仁安3(1168) 2.19
80	高倉	たか くら	憲仁(のり ひと)	仁安3(1168) - 治承4(1180) 2.21 2.19
81	安 徳 ^[1]	あん とく	言仁(とき ひと)	治承4(1180) - 寿永2(1183) 8.20 2.21
82	後鳥 羽	ごと ば	尊成(たか ひら)	寿永2(1183) - 建久9(1198) 8.20 正.11
83	土御 門	つち みか ど	為仁(ため ひと)	建久9(1198) - 承元4(1210) 正.11 11.25
84	順徳	じゅ んと く	守成(もり なり)、佐 渡院	承元4(1210) - 承久3(1221) 4.20 11.25

85	仲恭	ちゅうきょう	懐成(かねなり)、半帝、九条廃帝	承久3(1221) 4.20	- 承久3(1221) 7.9
86	後堀河	ごほりかわ	茂仁(ゆたひと)	承久3(1221) 7.9	- 貞永元(1232) 10.4
87	四条	しじょう	秀仁(みつひと)	貞永元(1232) 10.4	- 仁治3(1242) 正.9
88	後嵯峨	ごさが	邦仁(くにひと)	仁治3(1242) 正.20	- 寛元4(1246) 正.29
89	後深草	ごふかくさ	久仁(ひさひと)	寛元4(1246) 正.29	- 正元元(1259) 11.26
90	亀山	かめやま	恒仁(つねひと)	正元元(1259) 11.26	- 文永11(1274) 正.26
91	後宇多	ごうだ	世仁(よひと)	文永11(1274) 正.26	- 弘安10(1287) 10.21
92	伏見	ふしみ	熙仁(ひろひと)	弘安10(1287) 10.21	- 永仁6(1298) 7.22
93	後伏見	ごふしみ	胤仁(たねひと)	永仁6(1298) 7.22	- 正安3(1301) 正.21
94	後二条	ごにじょう	邦治(くにはる)	正安3(1301) 正.21	- 延慶元(1308) 8.25
95	花園	はなぞの	富仁(とみひと)	延慶元(1308) 8.26	- 文保2(1318) 2.26

96	後醍醐	ごだいご	尊治 (たかはる)	文保2(1318) - 延元4(1339) 8.15 2.26
97	後村上	ごむらかみ	義良 (のりよし)	延元4(1339) - 正平23(1368) 8.15 3.11
98	長慶	ちょうけい	寛成 (ゆたなり)	正平23(1368) - 弘和3(1383) 3.11 10.27
99	後亀山	ごかめやま	熙成 (ひろなり)	弘和3(1383) - 明德3(1392) 10.27 閏10.5 南朝元中9 ^[1] 年
北朝1	光厳(北朝)	こうごん	量仁 (かずひと)	元徳3(1331) - 正慶2(1333) 9.20 5.25
北朝2	光明(北朝)	こうみょう	豊仁 (ゆたひと)	建武3(1336) - 貞和4(1348) 8.15 10.27
北朝3	崇光(北朝)	すこう	興仁 (おきひと)	貞和4(1348) - 観応2(1351) 11.7 10.27
北朝4	後光厳(北朝)	ごこうごん	弥仁 (いやひと)	文和元(1352) 8.17 - 応安4(1371) 3.23

北朝5	後円融(北朝)	ごえんゆう	緒仁(おひと)	応安4(1371) 3.23	-	永徳2(1382) 4.11
100	後小松	ごこまつ	幹仁(もとひと)	弘和2(1382) 4.11	-	応永19(1412) 8.29
101	称光	しょうこう	実仁(みひと)	応永19(1412) 8 .29	-	正長元(1428) 7.20
102	後花園	ごはなぞの	彦仁(ひこひと)	正長元(1428) 7 28	-	寛正5(1464) 7.19
103	後土御門	ごつちみかど	成仁(ふさひと)	寛正5(1464) 7.19	-	明応9(1500) 9.28
104	後柏原	ごかしわばら	勝仁(かつひと)	明応9(1500) 10.25	-	大永6(1526) 4.7
105	後奈良	ごなら	知仁(ともひと)	大永6(1526) 4.29	-	弘治3(1557) 9.5
106	正親町	おおぎまち	方仁(みちひと)	弘治3(1557) 10.27	-	天正14(1586) 11.7
107	後陽成	ごようせい	誠仁(さねひと)	天正14(1586) 11.7	-	慶長16(1611) 3.27
108	後水尾	ごみずのお	政仁(ことひと)	慶長16(1611) 3 .27	-	寛永6(1629) 11. 8

109	明正	めいしょう 興子	寛永6(1629) 11.8	-	寛永20(1643) 10.3
110	後光明	ごこう 紹仁(つぐ みょう ひと)	寛 永20(1643) 10.3	-	承応3(1654) 9.20
111	後西	ごさい 良仁(なが ひと)	承応3(1654) 11.28	-	寛文3(1663) 正.26
112	霊元	れいげん 識仁(さと ひと)	寛文3(1663) 正.26	-	貞享4(1687) 3.21
113	東山	ひがし や ま 朝仁(あさ ひと)	貞享4(1687) 3.21	-	宝永6(1709) 6.21
114	中御門	なかみか ど 慶仁(やす ひと)	宝永6(1709) 6.21	-	享保20(1735) 3.21
115	桜町	さくら まち 昭仁(てる ひと)	享 保20(1735) 3 .21	-	延享4(1747) 5.2
116	桃園	もも ぞの 遐仁(とお ひと)	延享4(1747) 5.2	-	宝暦12(1762) 7.12
117	後桜町	ごさくら まち 智子(とし こ)	宝 暦12(1762) 7 .27	-	明和7(1770) 11.24
118	後桃園	ごもも ぞの 英仁(ひで ひと)	明和7(1770) 11.24	-	安永8(1779) 10.29
119	光格	こうかく 兼仁(とも ひと)	安永8(1779) 11.25	-	文化14(1817) 3.22
120	仁孝	にんこう 恵仁(あや ひと)	文 化14(1817) 3 .22	-	弘化3(1846) 正.26

121	孝 明	こう めい	統仁（おさ ひと）	弘化3(1846) 2.13	慶応2(1866) 12.25
122	明 治	めい じ	睦仁（むつ ひと）	慶応3(1867) 正.9	大正元(1912) 7.30
123	大 正	たい しょう	嘉仁（よし ひと）	大正 元(1912) 7. 30	昭和元(1926) 12.25
124	昭 和	しょう わ	裕仁（ひろ ひと）	昭和 元(1926) 12. 25	昭和64(1989) 1. 7
125	今 上	きん じょう		昭 和64(1989) 1 .7	- -

[\[indexへ\]](#)

[1] 安徳天皇には様々な伝説が伝えられています。つまり、壇ノ浦で入水したのは安徳帝ではなく、安東水軍の塩鮑次郎左衛門の子「辰丸」であり、本当の安徳帝は水軍に護持されて一旦は津軽鮎ヶ沢附近の天皇山に宮を構えたというもの。この他にも多くの身代わり伝説があり、長浜家古文書の伝えるところでは、薩摩の硫黄島に渡ったされ、黒木御所を造営し68歳で崩御したとされる。

[1] 「明德和約」により、天皇位を北朝後小松天皇に譲位する。これによって、南北の円満な和解が成立したかに見えた。この「和約」では、合一後の天皇位は後小松帝とするも、その後は旧南朝後亀山上皇の皇子小倉宮実仁親王とし、それ以降は「両統迭立」とされた。しかし、足利家に支えられた旧北朝の勢力に旧南朝は次第に押され、後亀山法皇は応永17年(1410)に再び南朝縁の地である吉野へ逃れる（後南朝の開始）。この後南朝は、後亀山天皇、良泰親王(初代、第3代)、天基天皇（2代、後亀山法皇の孫良泰親王の子、義仁親王）、泰仁親王(良泰親王の子、4代)、中興帝（5代、小倉宮実仁親王の子、尊義親王[三之公(川上村)在

住]、万寿寺宮、兄宮自帝[上北山村]と弟宮忠義王[神之谷、兄宮暗殺の後も奥地に匿われる]の父)、自帝(6代、尊秀王、赤松氏により暗殺)、興福帝(尊雅親王、7代)、西陣南帝(8代、小倉宮第四皇子・信雅親王、-1514)と続きます。後南朝最後の西陣南帝は、その名に西陣の地名が冠せられています。これは、文明3(1471)年に応仁の乱を戦っていた西国の覇者、山名宗全が帝を西陣安山院に迎えたことに由来します。なお、西陣南帝は謎多きその後の人生を歩むことになりませんが、一説には帝としての身分を隠し、熊沢現覚坊(母方武田支族八代熊沢家)と言う偽名を用いて全国を放浪した後に尾張一の宮にて生涯を終えたとされています。